

春季部内大会 おめでとう揃って3連覇!

(土小チーム・はくしんチーム)
(Aブロック) (Bブロック)

増尾近隣センター開館から7年目をむかえる
春の部内大会のメインピックス……
土小チーム・はくしんチームの3連続Vをレポート



第7回目をむかえた春の部内大会は、バレーボール・卓球・バドミントンの3部門で行われた。ここでは、特にバレーボールにスポットをあててみたい。

バレーボール大会には13チームが参加。A・Bの2ブロックに分け抽選でトーナメント戦が組まれ、ルールは柏市6人制で行われたわけだが、特筆すべきはAブロックの土小チーム、Bブロックのはくしんチームの優勝である。S60年の春の大会からズ〜ッと3年連続Vを遂げたことである。3年揃ってA・Bの優勝チームが同じ、ということも珍しいことではあるが、それよりもこうした結果をもたらした両チームの常日頃のトレーニングづくりの熱意を持ちつづけてきたママさん選手のみなさんを讃えたい。

3連続Vを祝して、両チームへ特別賞!

土小チーム——このチームは昨年6月、柏市教育委員会主催の柏市家庭婦人バレーボール大会で、5回のチャレンジで、Bブロック初優勝をもぎとっている。こうした実績と日頃のトレーニング、5回もチャレンジするピラニア的執拗さ——それに加えチーム目標の全員バレーが、実際のプレーに出てきたことが勝利獲得につながっている。

谷藤キャプテンはさらに——「全員バレーの実践での優勝だから二回目のときに比べて喜びも大きい。それに予期もしなかった特別賞をいただき感激!」と。

Bブロック優勝のはくしんチーム、キャプテン丸島さん、このチームはレシーブワークを誇るチーム。アタックボールを拾って、拾って、相手チームのミスを誘うという、まさに「現代版おしんスピリット」を支えに、耐え忍んでポイントをゲットしていくのが特長。アマチュアのスポーツ精神のお手本である。「Bブロック3年連続優勝は、トーナメント組みのクジ運もあって」と、ひかえ目に丸島キャプテンは語るが、運だけでは決してない。ますます「おしんスピリット」に研ぎをかけ、来年も特別賞をさらってもらいたい。

5/31日「ゴミ0の日」 環境美化キャンペーン

いま柏では、緑と水の美しい柏——アメニティータウンへの計画がすすめられています。これも市民一人ひとりが、よりよい環境づくりへの参加意識を高めていくことにかかっています。

本年は特に中野副知事が訪れ、当近隣センターの状況聞き、また参加者を激励するなど環境美化運動を大いにもりあげました。

- 参加人数
(1)町会一般参加者数………3,000名(去年2,900名)
(2)市職員参加者数………6名(去年6名)
ゴミ収集量
(1)空き缶…75袋(去年72袋)(2)空き瓶…34袋(去年31袋)
(3)可燃物…121袋(去年65袋)(4)不可燃物…38袋(去年44袋)



昭和62年度柏市増尾近隣センター運営協議会 及び運営委員会の新役員決まる

役職名	氏名	役職名	氏名
運営協議会 会長	塚田 裕也	運営委員会専門部	
副会長	友野 忠義	保健体育部長	高頭 宏信
	佐藤 秀哉	副部長	木村英太郎
会計	有馬 松雄		今野 清恒
	山崎喜子	文化部長	浅見 順造
会計監査	神宮 初雄	副部長	高石 進
	木内 義雄		岡本 友義
	森林 徳衛	福祉部長	戸村 英吉
運営委員会 委員長	吉田 稔	副部長	板倉 弘至
副委員長	高頭 宏信		金子 利夫
	有馬 松雄	広報部長	河野健一郎
事務局長	浅見 順造	副部長	奥村 泰雄
事務局次長	飯田 正夫		塩崎 恒博
事務局委員	飯田ふじえ		
	荒井 篤二	増尾近隣センター長	後藤 栄司
	飯田 隆司	主査	瀧能 好男
会計	有馬 松雄		

柏市増尾近隣センター運営協議会 昭和62年度歳入歳出予算

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
市補助金	3,009,000	運営費	
1. 事務費	250,000	1. 事務費	250,000
2. 事業費	1,000,000	(1)総会費	35,000
3. 人件費	1,509,000	(2)会議費	100,000
4. 広報活動費	250,000	(3)消耗品費	60,000
		(4)通信費	15,000
		(5)雑費	40,000
町会分担金	55,000	2. 事業費	1,250,000
その他収入	50,000	(1)広報部	400,000
		(2)保健体育部	400,000
		(3)文化部	300,000
61年度繰越金	505,640	(4)福祉部	150,000
		3. 人件費	1,509,000
		予備費	610,640
合計	3,619,640	合計	3,619,640

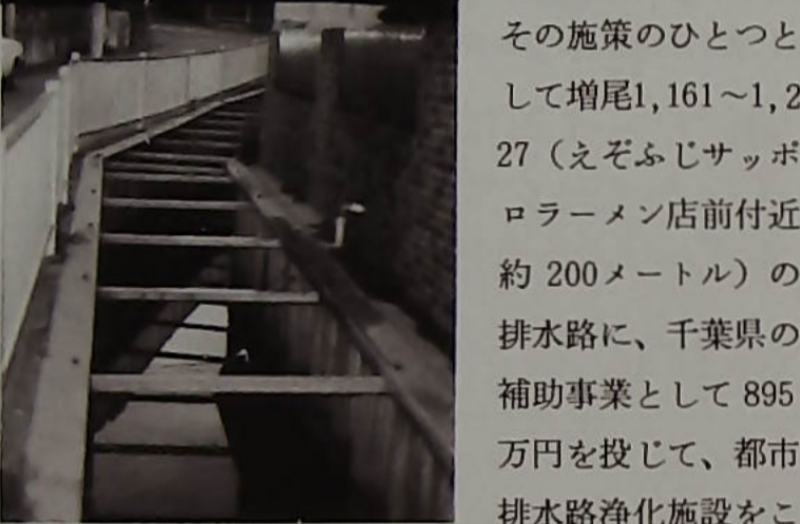
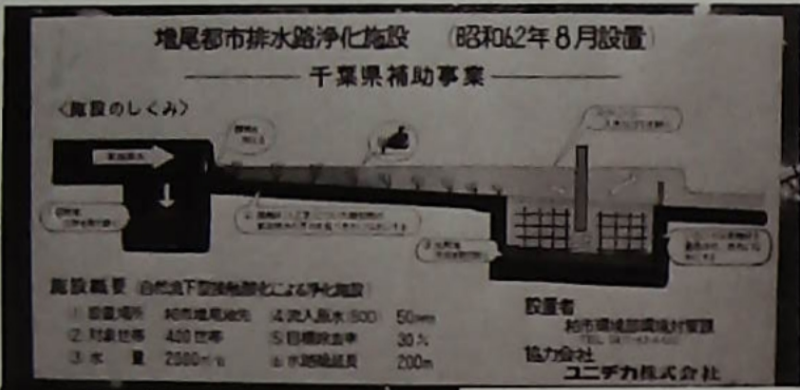
増尾近隣センター運営協議会

昭和62年度事業計画

事業内容	時期	予算額(円)	担当部
広報ふるさと発行 6,000部(16号) 6,000部1回(号外) 5,000部(17号) 各種行事写真代等	8月 10月 63年1月 各行事時	400,000	広報部
文化祭 新春囲碁将棋大会 その他	11月 63年1月	300,000	文化部
春季部内大会 体育祭 健康腰痛体操 新春卓球大会 その他	5月 10月 63年1月 63年1月	400,000	保健体育部
ゲートボール大会 老人クラブ芸能発表大会	10月 63年3月	150,000	福祉部
合計		1,250,000	

クリーン柏、緑と水の美しい都市へ

日本一汚染された手賀沼浄化対策の一環として、いま柏市ではいろいろな施策が試みられています。そのいくつかをレポートし、地域のみなさまのご理解・ご協力をお願いしています。



●完成した都市排水路浄化施設

その施策のひとつとして増尾1,161~1,227(えぞふじサッポロラーメン店前付近約200メートル)の排水路に、千葉県の補助事業として895万円を投じて、都市排水路浄化施設をこの7月末に完成。この施設の正しい名称は、「自然流下型接触酸化方式浄化施設」と言う。簡単に言えば、河床に人工芝を敷き、流水との接触面積を増し、それに付着した微生物で浄化しようというものです。増尾地区の排水は大津川支流に注ぎ、そこからいま問題視されている手賀沼に流れこんでいるわけです。

手賀沼汚染の80%は、各家庭からの生活雑排水が原因とされています。支流末端域の増尾地域も、その何%かを担っているわけです。「クリーン柏」実現への大切な第一歩は、わたしたちの環境美化への意識高揚と市の行政が一体化することにより、より有効な推進力となるわけです。増尾地域のより快適な環境づくりが、しいては、手賀沼を甦らせることにも、つながっています。みんなの力をあわせて頻死寸前の手賀沼を甦らせよう!

家庭雑排水浄化槽50基のテスト設置推進中!



正式名称は「家庭雑排水・厨房浄化槽」といい、雑排水を含めた汚泥処理装置である。この装置の機能を簡単に説明しますと、家庭の台所から放出される雑排水が2室からできている処理槽の1室へ先づ貯留されます。1ヶ月~2ヶ月の間にバルブを開き、沈澱汚泥を汚泥分解槽に放出し、汚泥は培地となり汚水を濾過浸透させる、という一世帯向けの汚泥浄化装置です。いま柏市では、テストケースとして50基を用意し、すでに増尾地区に5基を設置されています。

●設置箇所 ●関口豊さん、増尾741 ●長谷川富久さん、増尾1,934 ●平久徳治さん、増尾2,135-31 ●橋本モータース、増尾2,138 ●長井潤二郎さん、増尾2,142-25 以上5世帯

■詳しくは、柏市環境部環境対策課へ(電)63-4422

汚染80%のXは?

全国の湖沼の汚れを考える時、まず最初に名をもち上げるのは「合成洗剤」です。この合成洗剤は人体への安全性の面からもいくつかの問題点が、指摘されています。「水の生命」を考える時、わたしたち人間の生命を考えざるを得ません。現在の汚染がもっとエスカレートして複合汚染された時は、想像できない恐ろしい状況がこないとも限りません。自然の恵み深さを大切にしたいものです。

石けんを愛用し、きれいな環境をつくろう

柏市では、昭和58年から「粉石けん愛用運動」を展開しています。その事業のひとつとして「洗たく講習会」を市内各所で開催しています。

- 対象...20~30人ぐらい集まれば、団体・個人を問いません。●場所...ご希望の方で用意 ●日時...講習会を予定される一週間前にご連絡下さい。
- 講習会コースは、(1)1時間30分コース、(2)1時間コースの2つがあります。



★お問い合わせ...柏市経済部消費生活課へ (電)67-1111 内線444

★春季部内大会 入賞チーム・入賞者名発表

保体部の三部門...バレーボール・卓球・バドミントンそれぞれがトーナメント方式で行われた。優勝、準優勝、3位までの入賞者は下記のとおりです。

●バレーボール●

<Aブロック>	<Bブロック>
優勝 土小チーム	優勝 はくしんAチーム
準優勝 今谷Aチーム	準優勝 センターBチーム
3位 酒井根Aチーム	3位 酒井根Bチーム

●バドミントン●

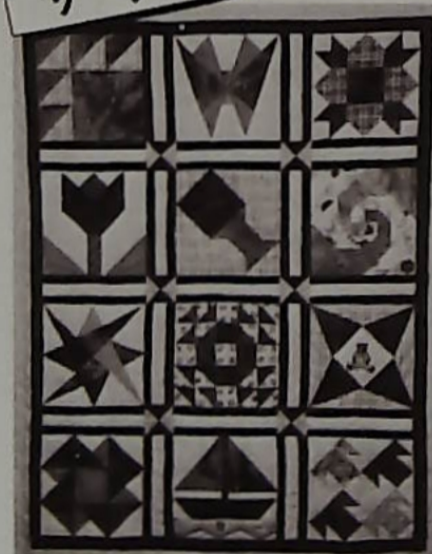
優勝 Cチーム	岡室美智代	浅原美喜子	佐久間美千代
	牛山 和子	渡辺 和子	小島 京子
準優勝 Fチーム	大森 則子	井手口成智子	判田 定子
	保田 靖子	網野なを子	渡辺 静江
3位 Eチーム	佐藤けい子	森作 紀子	青木千恵子
	鈴木 秀子	平山 幸子	高橋 和江

●卓球●

<Aブロック>	<Cブロック>
優勝 脇田ひろ子	優勝 石塚 美恵
準優勝 伊東 節子	準優勝 早川 富子
和田 洋子	土井 栄子
3位 菊川テル子	福永三枝子
大竹しん子	3位 本橋 紀子
鈴木美也子	田中 幸子
<Bブロック>	<Dブロック>
優勝 金森 蓉子	優勝 和田 則子
準優勝 杉本 悦子	準優勝 小俣 恭子
水谷 輝子	溝江 文子
3位 静井まき子	巖 和子
坪井 加代	3位 白鳥 香
平野 幸枝	町田 洋子

SPOT 3 文化サークル

黙々と1針1針で個性をキルトする喜び! パッチワークサークル「キルトの会」



●豊島郭子先生の作品

毎年11月に行われる当近隣センターでの文化祭では、パッチワークの華々たる作品群は、もうご周知、ここに紹介する横田さんをリーダー役とする「キルトの会」(16名)と山下さんを部長にした会(19名)の2つのパッチワークサークルの集大成です。壁かけのような絢爛たる装飾作品から洒落たセンスの実用小物と巾広い。大きいものでは2メートル四方に及ぶ大作がズラリ。これらを完成するには、なんと一年もの長きにわたって仕上げられているとのことらしい。1針1針思いをこめていく、針糸の運びはカタツムリの行進さながらである。根気と集中力を、いかに自己コントロールするかが、作品の出来映えにかかっている。厳しい根気と集中力を強らているながら何故か彼女たちは明るく、快活だ。その辺を横田さんに聞くと、

お互いに共通の世界に生きている実感から、本気で作品を批評したり、ほめ合ったり、励げまし合ったり、作品を通して各々の考えを本根で言い合えることが、すばらしいんだと言う言葉に、何故か真実味を感じた。その証と言っては大笑沙だが、仲間同志で現実の生臭い話題などに火移りしたりすることもないと言うことらしい。これも各々の会員のみなさんが「自分の世界」を、持っているからなのでしょう。

いま、このサークルはそうした喜びを理解し合える仲間16名が第1・第3の水曜日に喜々としてカタツムリの行進に励んでいる。



●「キルトの会」部長 横田光子